

- active growth of *Elodea nuttallii* (Planch.)
St. John. Jap. J. Ecol. 32 : 111—112.
- . Life cycle and growth of *Potamogeton crispus* L. in a shallow pond, Ojaga-ike.
Bot. Mag. Tokyo 95 : 109—124.
- . & K. Maeda. Seasonal and long-term changes in surface cover of aquatic plants in a shallow pond, Ojaga-ike, Chiba, Japan.
Hydrobiologia 87 : 45—56.
- Saji, H., M. Furuya & A. Takimoto. Spectral dependence of night-break effect on photo-periodic floral induction in *Lemna paucicostata* 441. Plant Cell Physiol. 23 : 623—630.
- Sastroutomo, S.S. Summer biomass of aquatic macrophytes in relation to sediment characteristics in Lake Aino-numa, Miyagi.
Jap. J. Ecol. 32 : 45—55.
- <補遺 1976 ~ >
- 矢野悟道・三好教夫・波田善夫・竹中則夫・大川 徹 (1979).
我国の西南限域に成立するミズバショウ群落について. 神戸女学院大論集 25 : 165—191.
- 矢野悟道・竹中則夫 (1980). 兵庫県下における湿原植生の研究 III. ミツガシワ群落について.
神戸女学院大論集 26 : 309—328.
- 百瀬忠征 (1980). オオカナダモの高校生物実験への応用(続Ⅲ) —オオカナダモの根について—その1.
都生研会誌 No.16 : 15—18.
- Nakada, M., K. Fukaya, S. Takeshita & Y. Wada (1979). The accumulation of heavy metals in the submerged plant (*Elodea nuttallii*).
Bull. Environm. Contam. Toxicol. 22 : 21—27.
- 水草関係文献目録 (2)**
- <1891 追加>
- 岡村金太郎. 水草の比較解剖 (承前).
植物学雑誌 (以下植雑) 4 : 14—17, 106—109.
- <1896>
- 牧野富太郎. 本邦産がま属三種. 植雑 10 : (28).
——. 日本領海産顕花植物. 同上 10 : (318).
- 安田 篤. 田字草ノ抵抗力. 同上 10 : (276).
- <1897>
- 大渡忠太郎. うめばちもノ産地.
植雑 11 : (379) — (380).
- 田中芳男. すがも. 同上 11 : (161) — (163).
- 牧野富太郎. のためきもノ再考.
同上 11 : (69) — (70).
- . みづおほぼこノ学名.
同上 11 : (71) — (72).
- . 日本ニ於テ海産顕花植物 Phyllospadix 属 1種ノ発見. 同上 11 : (135) — (139).
- . ぜにごけ科二種ノ和名 (かづのごけ、いてふうきくさ). 同上 11 : (278).
- . 日本産かははねノ品類.
同上 11 : (279) — (280).
- . はす即ち蓮ノ学名. 同上 11 : (315).
- . 日本「フロラ」ノ新禾本うきしばノ記.
同上 11 : (349).
- . みつがしはハ両形花ヲ有ス.
同上 11 : (350).
- <1898>
- Miyabe, K. Some physiological observations on *Nelumbo nucifera*, Gaertn
Bot. Mag. Tokyo 12 : 85—101, 112—117.
- <1899>
- 黒田 侃. 霞ヶ浦産植物. 植雑 13 : (51) — (53).
- <1902>
- 鈴木 靖. むじなもノ分布と利根川.
植雑 16 : (39) — (40).
- 矢部吉禎. ゑびあまもノ種子. 同上 (105) — (106).
- <1903>
- 矢部吉禎. 「ポドステモン」科植物の生態.
植雑 17 : (47).
- <1905>
- 牧野富太郎. えぞのみづたでヲ水、湿及ビ陸生ノ三変種ニ分ツノ必用ナシ. 植雑 19 : (112).
- Shibata, K. Studien über die Chemotaxis der *Salvinia*-spermatozoiden.
Bot. Mag. Tokyo 19 : 39—42.
- <1906>
- 椎原廣男. かいめんそう、うみひろも並ビニリヘリア土佐海ニ産ス. 植雑 20 : (18) — (19).
- 高野貞助. 「ムジナモ」産地に就て
博物学雑誌 No.69 : 25—26

徳淵永治郎. こあまもノ織緯状花粉ノ原形質運動.

植雑 20 : (119)

松村源蔵. 「ムジナモ」採集の記.

博物学雑誌 No.66 : 21 - 23.

<1907>

中井猛之進. みすみいノ新産地. 植雑 21 : (199).

保井コノ. さんせうもノ原葉体ニ関スル管見.

同上 21 : (20) - (24)

<1908>

松田定久. うきやがらノ変種 *Scirpus maritimus* L.

var. *affinis* (Roth.) Clarke ニ就テ.

植雑 22 : (164).

———. さじおもだかノ学名ニ就テ.

同上 22 : (165) - (166).

<1909>

中井猛之進. ほそばみずひきも (新称).

植雑 23 : (163).

牧野富太郎. おにばすハ浮沈ノ両葉ヲ有ス.

同上 23 : (79).

———. くわむ後ニくろぐわむト成りしろぐわむニく

わむト成ル. 同上 23 : (164).

<1910>

中野治房. 中部利根河岸ノ植物生態ニ就テ.

植雑 24 : (27) - (35).

牧野富太郎. しばなハ蓋シしほばなノ略カ.

同上 24 : (67).

———. 浮泛葉アルばいくわも本邦ニ産ス.

同上 24 : (284).

———. こなぎノ葉状. 同上 24 : (320).

———. ふらすもハふらすこもノ誤ナリ.

同上 24 : (343) - (344).

保井コノ. さんせうもノ生活史.

同上 24 : (81) - (91), (123) - (137).

○新潟市文化財調査報告書「佐潟の自然—オニバス保護を中心として—」(新潟市教育委員会、1982年3月、67p、非売品)

新潟市南部に位置する佐潟の近況の報告書。特に、オニバスに焦点があてられ、その保護が訴えられている。

周知のように、オニバスは、今、その生育地が激減しつつある植物で、各地でその保護が訴えられている。し

かし、周辺から開発の波が押し寄せる地域で、どのようにすればオニバスを残せるのかという点になると、明確な答が出てこないのが現実だろう。大事にしているつもりでも消えてしまうことがあり、逆に、ずいぶん荒っぽいことをしても、しぶとく繁茂しつづける場合もある。

かつて、岡田要之助博士は、オニバスに関する一連の研究(Study of *Euryale ferox* I~VIII、他)の中で多くの事実を明らかにされた。しかし、多くの問題を将来の課題として残された。私自身も、この2,3年オニバスの調査を進めて、少しなりとも理解を深めたと感じているが、まだ、あまりにも基本的な問題が未解明であるという事実と直面するとともに、ますます研究が進めにくくなりつつある(生育地の消滅、他)という現実には焦りすら覚える。多くの方が、各地で観察された資料を共通の場(この会報でもよい)に出され、議論が深められたらと願わずにはいられない。(角野)

○「ムジナモとその生育環境」(羽生市教育委員会、1982年3月、354p)

ムジナモの日本最後の自生地(天然記念物)であった羽生市宝蔵寺沼から、ムジナモが姿を消したのは1968年のことだった。それ以後、多くの研究者と行政当局の努力により、ムジナモ保護増殖事業が当地ですすめられてきた。この報告書は、その中で取組まれてきた調査結果の集大成である。目次の一部を抜き書きすると次のようである。

II. 宝蔵寺沼のムジナモについて

III. 研究方法および結果

A. ムジナモ増殖に関する研究(1. ムジナモ増殖のための栽培実験 2. 自生地におけるムジナモ、その他水生植物の放流実験 3. ムジナモの生長量と生長速度 4. ムジナモの生長とプランクトン摂食に関する室内実験 5. 食物連鎖を応用したムジナモの食害対策実験)

B. 水生生物に関する研究

C. 水質と水面上の被膜物質に関する研究

D. 宝蔵寺沼の成因に関する研究

IV. ムジナモの保護について